



平成25年度

秋田県21世紀土地改良区創造運動事例集

水土里ネットの ふれあい



秋田県21世紀土地改良区創造運動推進本部
(水土里ネット秋田)

目次

活動事例

1	鹿角地区(水土里ネット鹿角支部) … 1
2	大館南地区(水土里ネット二井田真中) … 2
3	立花地区(水土里ネット大館) … 3
4	綴子地区(水土里ネット綴子) … 4
5	能代地区(水土里ネット能代地区) … 5
6	浜田地区(水土里ネット浜口) … 6
7	琴丘地区(水土里ネット琴丘) … 7
8	仁井田地区(水土里ネット仁井田堰) … 8
9	飯島左貫地区(水土里ネット新城川) … 9
10	一ノ目瀧地区(水土里ネット一ノ目瀧) … 10
11	飯田川地区(水土里ネット飯田川) … 11
12	天王地区(水土里ネット天王) … 12
13	八西地区(水土里ネット八郎瀧西部干拓) … 13
14	井川地区(水土里ネット井川) … 14
15	本荘薬師堂地区(水土里ネット子吉) … 15
16	飛地区(水土里ネットにかほ) … 16
17	西目地区(水土里ネット西目) … 17
18	西木地区(水土里ネット西木) … 18
19	七滝地区(水土里ネット七滝) … 19
20	南旭川地区(水土里ネット南旭川) … 20
21	平鹿地区(水土里ネット雄物川筋) … 21
22	山田地区(水土里ネット山田五ヶ村) … 22
23	高松地区(水土里ネット湯沢中央) … 23
24	稲川地区(水土里ネット稲川) … 24
25	羽後地区(水土里ネットうご) … 25

参考資料

1. 平成25年度21創造運動表彰 受賞一覧
2. 愛称「水土里ネット」の普及状況

活動実施経過

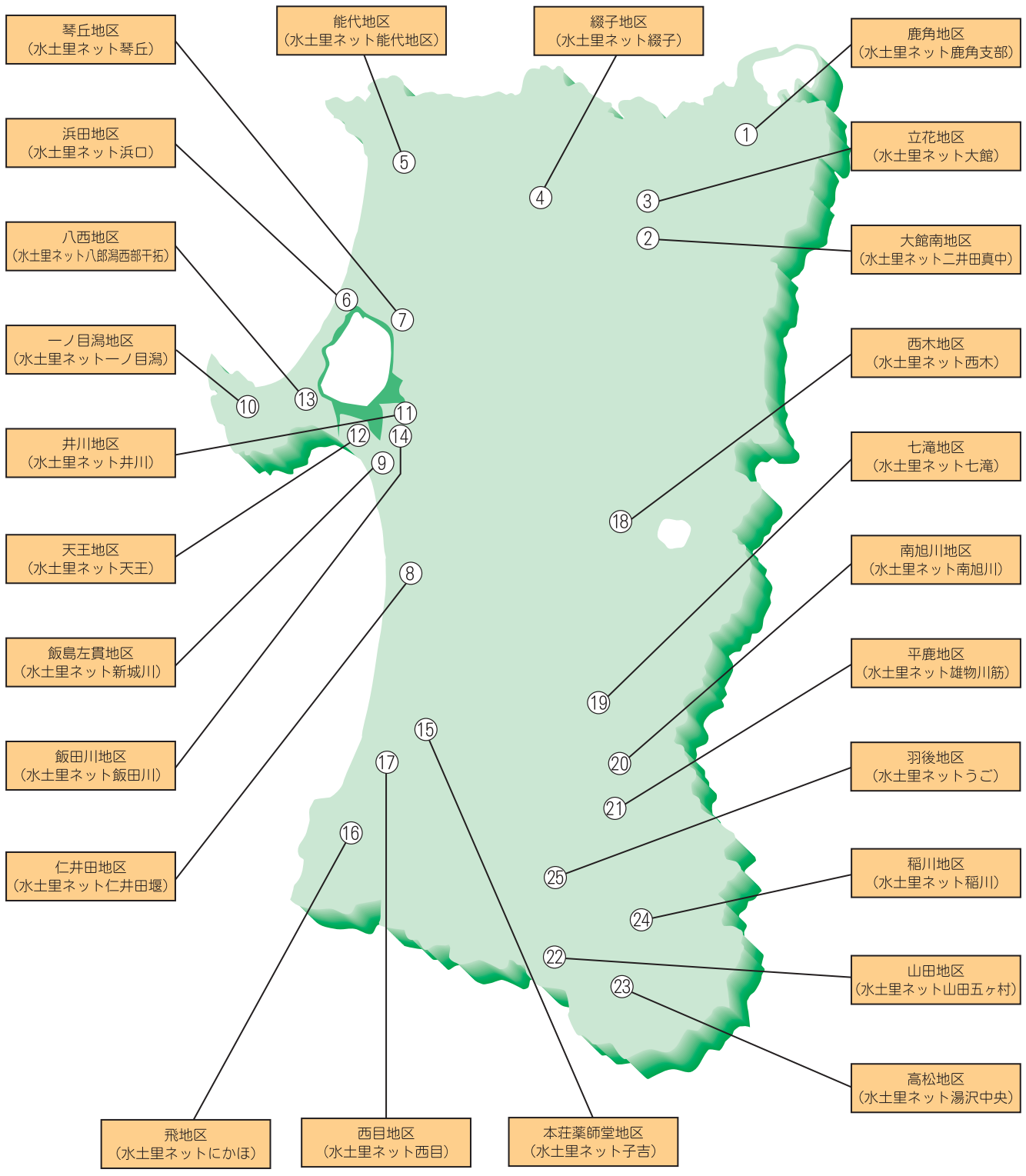
	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	年数
1		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑪
2				■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑨
3			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑩
4						■	■	■	■	■	■	■	⑦
5				■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑨
6		■		■			■				■	■	⑤
7				■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑨
8		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑪
9											■	■	②
10	■	■		■	■	■	■		■	■	■	■	⑩
11					■						■	■	③
12											■	■	②
13									■	■	■	■	④
14				■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑨
15		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑪
16		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑪
17									■	■	■	■	④
18						■	■	■	■	■	■	■	⑦
19							■	■	■	■	■	■	⑥
20						■	■	■	■	■	■	■	⑦
21	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑫
22	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑫
23	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		■	⑪
24	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑫
25	■		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑪

(活動経過実績)

- … 1年目
- … 2年目
- … 3年目
- … 4年目以降

表紙写真(上)：稲刈り体験(水土里ネット綴子)
 (下)：雪中田植え(水土里ネット稲川)

平成25年度活動地区位置図



① 鹿角地区 【水土里ネット鹿角支部】

農業体験活動

(1) 八幡平小学校、末広小学校の体験学習で実施している「田植え・稲刈り」に参加。

① 田植え体験学習

田植え学習へ出発する前に、各小学校学習田周辺の農業用施設マップや、パワーポイントを使い、施設の位置や構造、取水した水がどんな施設をとおり田んぼに流れつくのか等、施設の重要性や水の大切さ、水土里ネットの役割や取り組み等を説明しました。

どちらの小学校も手植え作業での田植えに挑戦しました。初めて田んぼに入る子供も多く、泥だらけになりながらも一生懸命に田植えを行っていました。

② 稲刈り体験学習

八幡平小学校の体験学習で田植えした学習田のお米が立派に稔り、10月3日に稲刈りが行われました。

慣れない手つきで稲刈り鎌を持ち、大変な作業に耐えながらも、最後は「はさ掛」まで行い楽しい秋の1日になりました。

③ 大収穫祭

11月に収穫感謝祭があり、田植え、稲刈りを手伝った保護者や地域の人達に招待状が届きました。今年は、収穫したお米で「だまっこ」を作りました。各班毎に、だまっこの形を工夫し味付けにも班のこだわりが見られました。最後に子供達全員から感謝の言葉と歌をプレゼントしてもらい、新米をおいしく味わってきました。



活動体制	
実施主体	水土里ネット鹿角支部（秋田県土地改良事業団体連合会鹿角支部）
後援・連携	鹿角市内小学校、かつの土地改良区、鹿角地域振興局
実施期間	5月～10月
参加者	農業体験（田植え・稲刈り）93名
報道関連	北鹿新聞、米代新報
活動実施年数	11年目（H15年～）
連絡先	〒018-5201 鹿角市花輪字荒田4-1 かつの土地改良区 TEL. 0186-23-3762
その他	県特別賞（H24）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット鹿角支部（根本由紀子）

○活動の目標及び達成率	目標	小学校の総合学習等に積極的に参加し、農業体験等で農業農村の重要性や水土里ネットの役割をPRする。			
	達成率	60%			
○活動に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> 前年度に比べ、計画的に活動することができず残念でした。 すべての運動で、関係機関と連携し協力を得ながら活動することができました。今後も更なる体制強化を図り活動を推進していきたいです。 				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	A	関係機関である鹿角地域振興局と連携し協力を得ながら活動している。報道機関を活用し幅広く活動をPRしていく。
①役職員・組合員の参加	B	役職員一体で取り組んでいる。	③運動の計画性	A	地域に合った内容で、農業施設の位置マップやパワーポイントを使い、役割や重要性、水土里ネットがどう関わっているのかを説明。
②後継者育成の工夫	A	地域毎にパンフレットや施設マップを作成し小学生へ説明している。	4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	C	運動の対象を小学生としているため、生徒のお家の方や地域の関与した人の参加となっている。今後幅広く活動していけるよう取り組みたい。
①基本理念の設定	B	地域環境に合う内容で小学生が理解できるような活動をしている。	b. 地域農業	C	地域柄、農家の方々が主体となり農業振興に積極的に活動できているので、改良区はサポート的な組織として活動している。
②地域の歴史等の伝承	B	水土里ネットの役割や取り組みをパンフレットにまとめ、PRをしている。	c. 地域コミュニティー	B	市内の小中学生を対象とした活動を10年以上続けてきて、今年初めて小学校側から出前授業の申し込みがあり、運動への理解が浸透し、信頼関係が築けてきたと実感しました。子供達とおして、家族や地域住民にも農業に対しての関心が、今以上に高められるよう運動を継続していきたい。
③運動の先駆性	C	管内全ての小学校を対象として活動出来るよう更なる取り組みが必要。型にはまった活動となってきている。今後検討が必要。	d. 地域資源管理	C	
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	学校側や各関係機関の協力を得ながら今後も継続していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> 未来の農業を担う子供達が、農業で必要な地域農業施設や水の大切さについて関心を高める活動にしたい。 		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

② 大館南地区 【水土里ネット二井田真中】

地元中学校の農園活動を支援 “キーワードは「地域・環境・守る」”

今年も中学校での農園活動が行われ、土地改良区が参加してから9年目を迎えました。

生徒たちにはマルチ掛け作業と苗植え体験などの指導を行いながら、水の管理や雑草対策、収穫作業を体験してもらい、管理の重要性や環境保全につながることへの大切さと、自分たちの住んでいる地域や土地改良区の役割などに関心を持っていただきました。

今年度も地元コーディネーターの方々が参加、協力を得ながら「えだ豆」や「さつまいも」などの野菜を植え、作業を終了しました。

夏には「えだ豆」の収穫体験、秋には収穫した「さつまいも」を使用した「なべっこ遠足」で舌づつみを打ち、25年度の農園活動も無事に終了いたしました。

学校農園活動を行う中学校は少なくなってきており、生徒数の減少などから農園活動は今年度をもって終了となりますが、南中生のみなさんには農園をつくることで地域も環境も守られるという事を少しでも感じてもらえたら嬉しいです。

今後は、これまでの経験をもとに新たな活動を検討していきたいと思っております。



活動体制	
実施主体	水土里ネット二井田真中（大館市二井田真中土地改良区）
後援・連携	大館市立南中学校
実施期間	6月5日、6月13日
参加者	大館市立南中学校 生徒68名
報道関連	
活動実施年数	9年目
連絡先	〒018-5751 大館市二井田字高村56 大館市二井田真中土地改良区 TEL. 0186-49-5010
その他	県奨励賞（H22）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット二井田真中（菅原恵里子）

○活動の目標及び達成率	目標	農園活動を通じた地域の環境と水土里ネットの役割への理解			
	達成率	80%			
○活動に対する評価	「地域・環境」という共通の目的をもって、中学校との連携体制が定着している。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	B	
①役職員・組合員の参加	A	活動に対する理解の定着	③運動の計画性	C	
②後継者育成の工夫	B	地域の環境と役割について理解を深めってもらうため活動を継続的に行っている	4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	B	
①基本理念の設定	A	作る事により地域や環境が守られていることへの理解	b. 地域農業	B	活動を通じて地域農業について理解と関心を深めてもらい将来の担い手につながればよいと思う
②地域の歴史等の伝承	B		c. 地域コミュニティー	A	継続していくことで関わりを深めている
③運動の先駆性	A	作る事により地域や環境が守られていることへの理解	d. 地域資源管理	C	
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	無理のない範囲での活動			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

③ 立花地区 【水土里ネット大館】

小学生によるネギ植え体験～地域の自然や人々とのかかわり

今年で10年目を向かえた農業体験学習は、昨年同様、農事組合法人立花ファーム、立花農地保全隊の協力のもと、6月7日に大館市立川口小学校の3年生24名が参加して、立花ファームで作付けしているネギ植え作業を体験しました。

最初にネギ苗の手植え作業について一通り説明を受けたあと、実際に手植え作業を体験。更に機械による植付作業の体験も行われ、初めての体験に戸惑う子どもも見られました。

作業終了後に立花ファームのハウスで開かれた質問コーナーでは、実際にネギの種を見せながらネギの種類や育て方などを説明。子どもたちから大人顔負けの質問も出されるなど、熱心な様子が伺えました。

本事業は毎年小学校3年生の児童を対象にネギ植え体験と収穫体験を実施しており、小学校の体験学習として定着しつつあることは立花地区にとって大変喜ばしいところでもあります。また、本年度新たに地元の中学校から農作業を体験したいとして、10月15日に全校生徒によるラベンダー周辺の草取り体験を行うなど、地域を挙げて環境保全にも協力を頂いたところでもあります。



活動体制	
実施主体	農事組合法人 立花ファーム
後援・連携	水土里ネット大館（大館市土地改良区）
実施期間	6月7日～11月1日
参加者	大館市立川口小学校3年生24名、教員1名
報道関連	秋田放送、北鹿新聞、大館新報
活動実施年数	10年目（H16年～）
連絡先	〒017-0056 大館市字沼館道南40-12 大館市土地改良区 TEL. 0186-42-0558
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット大館（石田 誠孝）

○活動の目標及び達成率	目標	地域の自然や人々とのかかわりを感じさせる			
	達成率	80%			
○活動に対する評価	・ 沢山の協力をいただき目標達成に近づいた				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	A	
①役職員・組合員の参加	A		③運動の計画性	B	
②後継者育成の工夫	B		4. 運動の成果		
2. 活動の意匠性について			a. 組織活性化	B	
①基本理念の設定	B		b. 地域農業	A	
②地域の歴史等の伝承	A		c. 地域コミュニティー	A	
③運動の先駆性	B		d. 地域資源管理	B	
3. 運動の継続性・発展性					
①運動の継続性	A				

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

④ 綴子地区 【水土里ネット綴子】

農業体験学習～新～

今年も農地・水事業の「綴子地区農地・水・環境保全組織（愛称 綴子大太鼓の里保全隊）」と連携し活動を実施しました。

農村環境保全活動では、小学校と連携し農業体験田植え・稲刈り、地域住民一体型として地元稲穂ロード3.3kmへの花植栽、子供会・親の会と連携し水質・生き物調査、1年の活動の締めくくりとして地域住民交流会を実施しています。

今年度の田植え体験では、児童数の減少もあり県立大学に協力要請をしたことで、児童と大学生が一緒になって昔ながらの手植えを体験するという新たな取り組みでの実施となりました。また、小学校と関係機関が連携し新たな活動として「農業学習」に取り組みました。5月に代かき見学、7月に生育調査を実施しました。児童達は地域振興局の説明に耳を傾け、田植え前に行う種の準備から稲刈りまでの一連の流れをこの農業学習で学びました。たくさんの質問が飛び交い、米づくりへの関心が深まった活動となりました。10月の稲刈りは天候不順で2回延期となり、残念ながら大学生と一緒に稲刈りとはなりませんでしたが、児童達は昔ながらの手刈りとはさ掛けを体験し無事収穫となりました。そして、この農業体験・農業学習を通じ、11月に行った地域住民交流会では「綴子米コメ大研究」と題し、種まきから稲刈りまでの一連の流れや、稲の病気や害虫の防ぎ方、お米の栄養や品種など、様々な研究を手作りパネルで発表してくれました。

今年は新たな取り組みと活動を実施しましたが、児童達により農業への関心を深めてもらうことが出来た活動だったと思います。また、学校からの評価も高く、今後も活動として継続していきたいと思っています。

そして、次世代の子ども達に伝えていけるような活動を地域住民や関係機関と連携して行っていきたいと思っています。



活動体制	
実施主体	北秋田市綴子地区農地・水・環境保全組織
後援・連携	北秋田市、北秋田地域振興局、地域団体、綴子小学校、県立大学、水土里ネット綴子
実施期間	5月13日～12月9日
参加者	地域住民、綴子小学校、県立大学、北秋田市、北秋田地域振興局、改良区職員他
報道関連	大館新報、秋北新聞、北鹿新聞
活動実施年数	7年目（H19年～）
連絡先	〒018-3301 秋田県北秋田市綴子字掛泥道下210番地 北秋田市綴子土地改良区 TEL. 0186-62-1677
その他	さなえ賞（H20）、県奨励賞（H25）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット綴子（藤澤 百恵）					
○活動の目標及び達成率	目標	活動を通じ農業に対する関心を深める			
	達成率	95%			
○活動に対する評価	新たな取り組みを関係機関との連携を図り目標達成に努めた				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	A	広報発行による周知が定着している
①役職員・組合員の参加	A	地域住民と共同で作業実施	③運動の計画性	C	積極的に検討
②後継者育成の工夫	B	学校・関係団体及び関係機関と連携	4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	B	継続した活動により深まっている
①基本理念の設定	B	取り組みが定着している	b. 地域農業	B	積極的に検討
②地域の歴史等の伝承	C	積極的に検討	c. 地域コミュニティー	A	継続した活動により深まっている
③運動の先駆性	B	積極的に検討	d. 地域資源管理	A	継続した活動が強化につながっている
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	継続して対応している	・活動がマンネリ化しないよう工夫した継続活動を実施していきたい。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

⑤ 能代地区 【水土里ネット能代地区】

水土里の実践活動

国営造成施設管理体制整備促進事業の一環として、「水土里の実践活動」を平成25年11月20日に開催した。

実践活動の内容は、能代市シルバー人材センター会員が参加し、素波里頭首工等の基幹的水利施設にて施設見学を実施した。

見学後、参加者との意見交換会を行い、地域資源である農業水利施設の持つ多面的機能の重要性を改めて認識しながら、農業者だけではなく、非農家を含めた地域全体で農業水利施設を守っていかなければならないことについて確認を行なった。

今後とも、能代市シルバー人材センター等の非農家を含めた活動を継続していけるよう努めたい。



活動体制	
実施主体	能代地区管理体制整備推進協議会（事務局：秋田県能代地区土地改良区）
後援・連携	
実施期間	11月20日
参加者	11月20日 能代市シルバー人材センター会員20名 能代市農業振興課 1名 三種町農林課 1名 秋田県能代地区土地改良区 職員4名 計 26名
報道関連	無し
活動実施年数	14年目（H12年～）
連絡先	〒016-0014 能代市落合字中大野台100番地23 秋田県能代地区土地改良区 TEL. 0185-54-3024
その他	県奨励賞（H20）、県知事賞（H24）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット能代地区（武田 佳晃）

○活動の目標及び達成率	目標	農業水利施設の多面的機能発揮のため、地域住民との施設管理協定締結等の新たな管理体制の枠組みを構築する。			
	達成率	70%			
○活動に対する評価	・協定締結や推進活動を継続してきたことにより、事業の趣旨や重要性が理解され、これまでの活動が定着段階にある。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	—	実施していない
①役職員・組合員の参加	B	役職員以外にも、今後継続して活動することにより理解を深めていきたい。	③運動の計画性	A	施設の概要だけでなく土地改良区の業務内容についても説明した上で活動している
②後継者育成の工夫	—	実施していない	4. 運動の成果		
2. 活動の意味性について			a. 組織活性化	B	役職員以外にも、今後継続して活動することにより理解を深めていきたい。
①基本理念の設定	A	推進協議会で計画策定を実施し活動を実施している。	b. 地域農業	—	地域農業の振興には関係していない。
②地域の歴史等の伝承	B	水利施設での活動等、特徴を生かした運動を実施している。	c. 地域コミュニティー	A	地元自治会及び地域住民団体活動を実施している。
③運動の先駆性	B	推進協議会で計画策定を実施し活動を実施している。	d. 地域資源管理	B	各施設の保全管理の強化につながっている。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	B	予算を考慮して計画策定し、土地改良区負担こそ発生するものの、少額で収まるよう活動を実施している。	・地域住民や地元自治会等との活動を継続し、実践活動の定着を図る。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

⑥ 浜田地区 【水土里ネット浜口】

平成25年度水生生物調査

1 調査目的

当町の基幹産業である農業に関心を高め、併せて農業を支える環境の働きに視点をあて、「生き物（水生生物）と環境」をテーマに体験を通して学び、地域の環境への関心を高め、自分たちの生活を支えている水田、環境と農業、環境と人々の生活、環境と生き物などを通して考える態度を養う。

2 調査方法

- ①調査ポイント 2か所 ・P7 出水口（周囲コンクリート水路）・P4 蓮沼から出水口の水路（土側溝水路20mの範囲）
- ②魚とり網で数回すくい取る。
- ③観察用バット（園芸用大の鉢皿）に移し、種類、数等を記録。（参考資料）国土交通省発行東北整備局発行 調査用下敷き
- ④記録は、採集環境が分かるよう、言葉、図等で記録する。
- ⑤各班単位（4班）でポイントごとに記録する。
- ⑥すくい取った生き物は、終了後には水路に放す。

3 用具

魚取り網 バット 記録用紙 筆記用具 ピンセット

4 留意事項

- ・水路だけでなく、周囲の環境全体をとらえさせる。 ・蓮沼（水）の環境が大きく影響していることに気づかせる。
- ・コンクリート水路と土側溝水路、沼の近く等の違いに注意し、観察を進める。 ・危険防止に配慮する。

5 調査結果（児童の記録より）

(1) 生き物

- ①甲殻類～0匹 ②巻貝類～マルタニシ ③魚類～ フナ、ウグイ、オイカワ、ドジョウ、ナマズ、種類不明の稚魚
- ④両生類～アマガエル ⑤昆虫～トンボ類の幼虫、ヤゴ、アメンボ、ゲンゴロウ

(2) 水の状態

- ・少しにおいがした。水の流れはほとんどなかった。（渇水状態のため）
- ・コンクリート水路は藻類の付着は少なく、土側溝水路の状態は水の流量が少なかった。

6 子どもの感想と意識の変化

- ・生き物の命のみなものは「みず」であることに気づかせ、水の大切さ、水を確保するための工夫がされている。（水路、沼）
- ・コンクリート水路と沼の近くでは、水生生物の種類、魚の大きさ（成長）に違いがある。
- ・地域の特産品（フナ、ワカサギ）八郎湖に棲む生き物であることに気づき、水の大切さや環境への配慮、農業を支える水の役目を知り、自分たちの環境を守っていくことの重要性に気づいた。

7 その他

調査時期、調査ポイントの設定に検討を加え、児童生徒の興味・関心を高めるための工夫と継続された調査になるよう配慮し、学校や地域との連携を図り、調査時期、ポイント等を検討し継続的な調査をしたい。



活動体制	
実施主体	三種町浜口地域農地・水・環境保全組織
後援・連携	水土里ネット浜口（三種町浜口土地改良区）
実施期間	6月27日
参加者	浜口小学校4年生14名、指導員1名、調査補助員4名、小学校教諭3名、土地改良区役職員4名
報道関連	
活動実施年数	2年目（H24年～）
連絡先	〒018-2407 山本郡三種町浜田字福沢13-1 三種町浜口地域農地・水・環境保全組織（三種町浜口土地改良区事務所内）TEL.0185-88-8818 会長：清水義孝 事務局：清水成一
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット浜口（畠山 篤美）

○活動の目標及び達成率	目標	農業に関心を高め、環境の重要性を知ってもらう			
	達成率	100%			
○活動に対する評価	2年目の継続事業で、小学校の総合学習の一環として水生生物調査ができた。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	B	専門家や退職した先生等を講師に協力して頂いた。
①役職員・組合員の参加	C	広報等で紹介しており、ある程度は理解されている。	③運動の計画性	B	現地で直接施設を見せながら説明した。
②後継者育成の工夫	A	小学生を対象に取り組んでいる。	4. 運動の成果		
2. 活動の意味性について			a. 組織活性化	C	総代、組合員の意識向上にはまだまだで、さらに努力していきたい。
①基本理念の設定	A	環境と農業、人々の生活、生き物調査に継続して取り組んでいる。	b. 地域農業	B	子供たちには、将来地域の担い手農家として頑張ってくれことを期待している。
②地域の歴史等の伝承	A	最大限生かした運動になっている。	c. 地域コミュニティー	A	各組織や小学校と連携を図りながら進めることができた。
③運動の先駆性	B	計画を立てて実施している。	d. 地域資源管理	B	水資源の大切さや土地改良施設への理解が得られた。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	可能な範囲で運動を行っている。	・調査ポイントを多くして、生息する生物の違いを確認する。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

田んぼの水の話

琴丘小学校5年生を対象にした農業施設見学会は今年で連続8回目となりました。

5年生では6月の時期に社会科目で農業用水等の学習をしており、学校側でも大変貴重な社会勉強になると喜ばれています。

活動内容は、最初に羽根川ダムにおいてテキストとパネルによって土地改良区の仕事と農業用水の仕組みや水利施設の役割・歴史等を説明し、質門に答えるという形で行いました。

その後の施設見学会は、用水の流れに沿って羽根川ダム・ため池・揚水機場・排水機場の順に施設を廻り、実際に運転操作等を体験させました。参加した児童は施設の内部を見るのは初めての体験であり、興味深そうな様子でした。

活動自体は毎年同じですが、参加児童が変わるので説明側も新たな気持ちで接することができます。

今後この活動を継続し、土地改良区と農業水利施設の果たす役割を地域住民に理解してもらえるようにしたいと考えています。



活動体制	
実施主体	水土里ネット琴丘（琴丘土地改良区）
後援・連携	三種町立琴丘小学校、三種町教育委員会
実施期間	6月27日
参加者	小学5年生33名、教師2名、土地改良区職員2名
報道関連	
活動実施年数	9年目（H17年～）
連絡先	〒018-2104 山本郡三種町鹿渡字中沢新田34-1 琴丘土地改良区 TEL. 0185-87-2277
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット琴丘（牧野 一）					
○活動の目標及び達成率	目標	土地改良区及び農業水利施設に対する社会認識の向上			
	達成率	85%			
○活動に対する評価	・実施可能な範囲内での活動を継続しており、児童・父兄・学校からの評価もそれなりに高いと感じている。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	C	他組織との連携は十分とは言えない
①役職員・組合員の参加	B	総代や組合員に理解が十分浸透しているかは不明	③運動の計画性	A	盛り込まれた運動になっている
②後継者育成の工夫	B	引き継ぐべき職員は確保している	4. 運動の成果		
2. 活動の意味性について			a. 組織活性化	D	組織の活性化までには至っていない
①基本理念の設定	A	土地改良区及び農業水利施設の役割を理念としている	b. 地域農業	C	間接的に地域農業振興のために活動している
②地域の歴史等の伝承	B	地域の農業水利施設を対象としている	c. 地域コミュニティー	C	それなりの関わりと貢献はしているのではないかと
③運動の先駆性	B	運動の理念や関連性を考えている	d. 地域資源管理	C	地域資源の保全強化のために少しは貢献している
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	無理のない運動を心掛けている	・過疎化及び少子化の影響と思われるが、年々参加児童が減少しており危惧している。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

⑧ 仁井田地区 【水土里ネット仁井田堰】

仁井田小正月行事「火振りかまくら」

当仁井田堰土地改良区では「水土里のみちウォーキングin仁井田walk」と題してウォーキングをとおして地域の豊かな自然と農業用施設に親んでもらおうと、関係機関のみなさまの協力を得ながら平成15年度から24年度まで10年間にわたり創造運動に取り組んできました。

平成25年度からは新たな企画を模索しておりましたが、なかなかこれまで行ってきたウォーキングを越える企画が無く、役職員一同困り果てていました。そんな中、仁井田地域には素晴らしい伝統行事があることに気付き、まず今年は職員が、いちスタッフとして祭りに参加させてもらい、活動を行いました。

祭りの内容は仁井田地区に古くから伝わる小正月行事「火振りかまくら」で火のついたわらの束を振り回して無病息災や五穀豊穡などを祈願する行事で、仁井田地区の振興会が主体となって行われており、約300年の歴史（戦後一時中断）があります。

今回、21世紀創造運動の活動として初めて地域行事に参加しましたが、今後はもっと積極的に土地改良区の役職員として地域行事に参加することで、これまで以上に土地改良区の役割や農業農村整備事業の必要性を理解してもらえよう活動を継続していきたいと思えます。



活動体制	
実施主体	仁井田地区振興会
後援・連携	仁井田地区各種団体（市民憲章・社会福祉協議会・町内会長会・交通安全協会ほか）
実施期間	1月15日
参加者	300人
報道関連	秋田魁新報、秋田朝日放送
活動実施年数	11年目（H15年～）
連絡先	〒010-1421 秋田市仁井田本町4丁目5-20 仁井田堰土地改良区 TEL. 018-839-2504
その他	県奨励賞（H16）、東北地方大賞奨励賞（H16）、県知事賞（H19） 秋田県地域振興局元気なふるさとづくり賞（H19）、東北地方大賞奨励賞（H20） 東北地方大賞奨励賞（H24）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット仁井田堰（伊藤 清栄）

○活動の目標及び達成率	目標	地域行事への参加			
	達成率	80%			
○活動に対する評価	・地域の人たちと一緒に活動することができた				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	C	
①役職員・組合員の参加	B		③運動の計画性	D	
②後継者育成の工夫	B		4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	C	
①基本理念の設定	C		b. 地域農業	C	
②地域の歴史等の伝承	A		c. 地域コミュニティー	B	
③運動の先駆性	C		d. 地域資源管理	C	
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A		・新たな活動を見つけ出し、スタートさせたい。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

小泉瀉クリーンアップ

昨年に引き続き小泉瀉クリーンアップが6月30日(日)午前6時より、金足地区振興会、追分町内連合会、県立博物館、小泉瀉公園事務所のご協力により開催致しました。今年は、昨年の反省を踏まえ、事前に地域内の小学校、中学校、高校にクリーンアップ開催のパンフレットを配布し、協力要請を行い対応しました。その甲斐も有り、町内及び関係者187名、学生115名、合計302名と昨年の倍の参加者を募ることができました。

はじめに、当改良区の安田理事長より参加者に対するお礼の挨拶があり、次に改良区でもごみゼロ運動を行っていることを話し、ゴミのポイ捨てなどしないよう呼びかけました。その後、小泉瀉の男瀉、女瀉に別れてクリーンアップ作業を行いました。今年は、特に雨量が少なく、当日の瀉の貯水率は20%と過去最低水位でした。それにより普段水が溜まって入って行けない湖底におりる事ができ、クリーンアップすることができました。2時間程の作業で、タイヤ、ポリバケツ、空き缶、ペットボトル、買い物袋など、軽トラック5台分を回収することができました。

1人の力は小さいけれど、皆の力を結集すれば、すごく大きい事ができると実感しました。

私達の目標は、地域の方々に農業用施設の重要性と水の大切さをアピールし、理解してもらう事ですので、来年も引き続き関係機関と連携をとりながら、活動を継続していきたいと思えます。



活動体制	
実施主体	小泉瀉をキレイにする会、水土里ネット新城川（新城川土地改良区）
後援・連携	金足地区振興会、追分町内連合会、小泉瀉公園管理事務所、県立博物館、各町内会
実施期間	6月30日
参加者	町内及び関係者187名、学生115名（金足農業高校、秋田北中学校、金足西小学校）合計302名
報道関連	秋田魁新報
活動実施年数	2年目（H24年～）
連絡先	〒010-0146 秋田市下新城中野字琵琶沼188-15 新城川土地改良区 TEL. 018-873-2151
その他	さなえ賞（H25）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット新城川（安養寺文隆）

○活動の目標及び達成率	目標	・クリーンアップを通して農業用施設の重要性と水の大切さをアピールし理解してもらう。			
	達成率	70%			
○活動に対する評価		・低予算で各関係機関と連携して活動することができた。			
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	A	いろいろな団体と連携を組んで実施できた。また昨年とは違い、地域の学校にもお願いし、生徒の参加を得ることが出来た。
①役職員・組合員の参加	B	役職員だけでなく地元総代、組合員からも協力を得ている。	③運動の計画性	B	理事長の挨拶に盛り込んでもらう程度だったので、今後工夫し、盛り込んでいきたい。
②後継者育成の工夫	A	小中高の生徒が参加することにより、将来実を結ぶと思う。	4. 運動の成果		
2. 活動の意欲性について			a. 組織活性化	B	少しずつ活性化していると思う。
①基本理念の設定	A	クリーンアップを通して農業用施設及び水の大切さを知ってもらうことができた。	b. 地域農業	B	地域の振興会の力強い協力を得て少しずつ先導的組織になっていると思う。
②地域の歴史等の伝承	B	クリーンアップ前に参加者に対し水土里ネットについて説明することができた。	c. 地域コミュニティー	B	少なからず貢献していると思う。
③運動の先駆性	A	少ない予算で、地区の団体と連携を組んだ活動なので、今後継続的に活動できると思う。	d. 地域資源管理	A	農家だけでなく、非農家の参加により大いに保全強化につながっていると思う。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	少ない予算で、無理の無い活動だと思う。			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

クリーンアップ及び現場見学

当土地改良区では、21創造運動として、平成14年より開始し、過去8回のブラックバス駆除を行っている。また、現在一ノ目潟は農業用の他に飲料水としても利用されていることから、水質保全のため一ノ目潟周辺のクリーンアップも同時に実施している。今年度は一ノ目潟の水位が高く湖岸での作業が危険なためブラックバス駆除は断念したが、参加者とともに湖岸と堤防周辺のクリーンアップは継続して行った。また、秋田地域振興局農村整備課の協力の下、報告会を行い「一ノ目潟水路トンネルの歴史と改修工事概要」として江戸時代から明治時代に開削された野村川から一ノ目潟に導水する水路トンネルの改修工事の概要を、「一ノ目潟の湖底からのおくりもの」として、湖底堆積物「年縞（ねんこう）」の調査報告を行った。その後、現場見学として実際に水路トンネル内を視察した。今回のブラックバス駆除は実施できなかったが、クリーンアップ活動では参加者に協力していただき堤防周辺の空き缶や、釣り糸を回収した。ごみの量は10ℓ入れのゴミ袋二つ分であった。ごみの量は年々減少傾向にある。遊漁者も年々減少しているのではないかと推測される。報告会では一ノ目潟の歴史や未来に水環境を引き継ぐための取組について理解を深めた。現場見学では実際に掘削の終了したトンネル内を歩くことで、先人の功績と改修工事に携わる関係者の苦労を実感した。普段当たり前のように使っている農業用水と飲料水。詳しい報告を聞き、実際に水質の保全活動に参加し現地を見学することで、先人の偉業を未来への継続することの重要への理解を深める機会となった。



活動体制	
実施主体	水土里ネット一ノ目潟（男鹿市北浦一ノ目潟土地改良区）
後援・連携	男鹿市、秋田県土地改良区事業団体連合会、秋田県秋田地域振興局
実施期間	9月4日
参加者	地元住民、男鹿市、関係者 43名
報道関連	秋田魁新報
活動実績	11回目（ブラックバス駆除の実施平成14年、15年、17年、18年、19年、20年、22年、24年。16年は台風の通過により中止。クリーンアップのみ実施21年、23年、25年）
連絡先	〒010-0683 男鹿市北浦北浦字北浦82-5 男鹿市北浦一ノ目潟土地改良区 TEL.0185-33-4069
その他	県奨励賞（H23）、県知事賞（H25）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット一ノ目潟（夏井まゆ子）					
○活動の目標及び達成率	目標	湖岸周辺のクリーンアップを土地改良区が主体となり、地元住民とともに。報告会及び現場見学により水環境を維持することの重要性に理解を深める			
	達成率	80%			
○活動に対する評価	クリーンナップについては充分活動内容を達成していると感じる。今年度はブラックバス駆除ができなかったが、秋田地域振興局、県土連、男鹿市の皆様のご協力により、活動を続けることができた。報告会及び掘削が完了したトンネル内の見学では参加者から減多にない機会を得たと感想をいただいた。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	B	
①役職員・組合員の参加	A		③運動の計画性	B	
②後継者育成の工夫	D		4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	C	
①基本理念の設定	A		b. 地域農業	D	
②地域の歴史等の伝承	A		c. 地域コミュニティー	D	
③運動の先駆性	A		d. 地域資源管理	B	
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A		・継続して運動を行ったことで、水質保全への取組が地域への理解を得つつある。今後も継続して行う努力を続けたい。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

学習田農業体験活動

飯田川小学校が実施する総合的な学習における学校農園活動の、5年生による「ふれあいマイ田んぼ」と銘打った学習田への農作業体験に参加しました。

田植え体験。作業の説明を受け裸足で田んぼに入り、型枠で付けた目印に沿って苗を手植えました。田植え機の乗車体験も行いました。

稲刈り等体験。黄金色に稔った稲を、鎌を使って手刈りして束ねました。コンバインの乗車体験も行いました。また、昔の農器具を使って脱穀・もみ摺りなどを体験し、その米をおにぎりにして食べました。

収穫感謝祭。農作業体験をモチーフにした劇や感想発表、感謝状をいただき、子供たちが収穫した米で作った「だまこ鍋」をごちそうになりました。

子供たちに農作業の難しさや収穫の喜びを感じながら、水やお米の大切さも知ってもらえれば、水土里ネットの重要性も理解していただけたと思います。



活動体制	
実施主体	飯田川小学校
後援・連携	J Aあきた湖東 老人クラブ 婦人会 水土里ネット飯田川（飯田川土地改良区）
実施期間	5月13日、9月30日、11月22日
参加者	飯田川小学校（5年生、教職員、保護者）、老人クラブ他 80名
報道関連	
活動実施年数	8年目（H18年～）
連絡先	〒018-1502 潟上市飯田川下虻川字八ツ口64 飯田川土地改良区 TEL. 018-877-3888
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット飯田川（川上 丈樹）

○活動の目標及び達成率	目標	農業水利施設や水土里ネットの役割と重要性のPR			
	達成率	50%			
○活動に対する評価	・参加が定着してきている。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	C	広がりは薄い
①役職員・組合員の参加	C	水土里ネットとしての参加者が少ない	③運動の計画性	C	少しは盛り込まれている
②後継者育成の工夫	D	取り組んでいない	4. 運動の成果		
2. 活動の意味性について			a. 組織活性化	D	活性化していない
①基本理念の設定	B	取り組んでいる	b. 地域農業	C	少しは振興に取り組んでいる
②地域の歴史等の伝承	C	少しは生かしている	c. 地域コミュニティー	B	地域とのコミュニティーは良い
③運動の先駆性	D	他に運動はしていない	d. 地域資源管理	C	少しはつながっている。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	毎年無理なく継続中			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

12 天王地区 【水土里ネット天王】

クリーンアップ

当地区は平成17年より8年間、塩口自治分館と潟上市天王土地改良区が協定締結し水路の管理用地のクリーンアップを行ってきました。

この活動を行う前は水路用地＝ゴミ捨て場のようなイメージがありましたが、自分たちでクリーンアップを行っていくにあたり、粗大ゴミ、農業ゴミ（肥料袋、モミガラ）などが減ってきました。

また、参加してくれる方々の大半が御婦人で、クリーンアップに参加してくれた後はその話を家庭で話題とすることで、不法投棄防止の啓蒙になっていると思われます。

また最近では、この承水路管理用地に隣接する市道はこの集落の散歩コースとなっており、クリーンアップに参加してくれている方々が不法投棄に関する監視人的な役割を果たしていて、散歩途中で軽微なゴミがあったら一箇所に集めるような活動も見受けられるようになりました。



活動体制	
実施主体	水土里ネット天王（潟上市天王土地改良区）
後援・連携	塩口自治分館
実施期間	6月1日
参加者	90人
報道関連	なし
活動実施年数	2年目（H24年～）
連絡先	〒010-0201 秋田県潟上市天王字上江川47 潟上市天王土地改良区 TEL. 018-878-3111
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット天王（桜庭 秀見）					
○活動の目標及び達成率	目標 不法投棄を減らして捨てる人の意識改革 達成率 80%				
○活動に対する評価	・目標は、大幅に達成とは言い難いが継続する事により徐々にゴミが捨てられなくなってきている事が感じられる。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	B	口コミで「ご近所お誘いあわせの上」と呼びかけて啓蒙している。
①役職員・組合員の参加	B	この活動は、数ある地区の一地区の活動なのでなかなか浸透が進まない。	③運動の計画性	B	クリーンアップをする事によって当該施設の重要性の認識が深まる。
②後継者育成の工夫	C	この活動の目標は、継続であり大きくせず小さくせず。	4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	B	地区役員、地区総代の意識は向上した。
①基本理念の設定	A	生活に密着している承水路管理用地の美化が目的	b. 地域農業	B	地域農業と地域集落のつながりが深まる。
②地域の歴史等の伝承	B	美化が進むと地域に密着した水路なので地域資源になりうる。	c. 地域コミュニティー	B	自治組織に農業施設を認識しつつ集落のコミュニティーにつながっている。
③運動の先駆性	C	地域住民にクリーンアップを行なう事で不法投棄をなくすという考えから来ている。	d. 地域資源管理	B	農業用水をクリーンアップする事で施設の管理が芽生えてきている。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	継続を目的としている。			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

13 八西地区 【水土里ネット八郎潟西部干拓】

農業水利施設見学会

国営造成施設管理体制整備促進事業の一環として弘戸小学校5年生を対象に施設見学会を実施した。

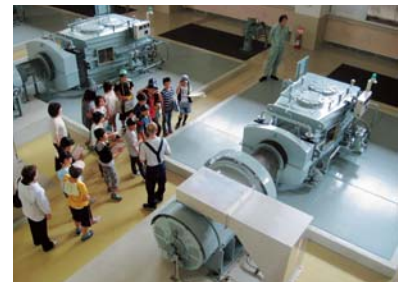
バスでの移動の途中に農道にバスを止め、当土地改良区は干拓によって造成された田を管理していること、周辺から流れてくる生活排水や雨水の終末処理をしているため排水機場のポンプで八郎潟調整池に排水していることなどを説明した。

次に、揚水機場、排水機場を見学し実際に調整池に排水させる様子を見せ、水が勢いよく流れることを説明し、危険な排水路や調整池付近では遊ばないように注意を促した。

子ども達は建物があることは知っていても、どういう働きをしているのか知らなかったため、改めて各施設の役割について理解したようだった。

その後、南部排水機場に移動し八郎潟干拓のことや排水機場のしくみをビデオで見てから、集中制御方式の操作室や巨大なポンプを見学した。最後に排水の様子を見た子ども達は、管から勢いよく出る水を見て驚きと喜びの声を上げていた。

今後も農業水利施設の重要性と土地改良区が行っている維持管理について理解してもらうためにこの活動を継続していきたいと思う。



活動体制	
実施主体	水土里ネット八郎潟西部干拓（八郎潟西部干拓地区土地改良区）
後援・連携	弘戸小学校、秋田地域振興局八郎潟基幹施設管理事務所
実施期間	6月20日
参加者	弘戸小学校（生徒16名、教職員2名）八郎潟基幹施設管理事務所（2名）土地改良区役職員（8名）
報道関連	
活動実施年数	4年目（H22年～）
連絡先	〒010-0431 男鹿市弘戸字浜1-6 八郎潟西部干拓地区土地改良区 TEL. 0185-46-2174
その他	さなえ賞（H24）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット八郎潟西部干拓（船木 友見）					
○活動の目標及び達成率		目標	農業水利施設と土地改良区の役割について理解や関心を持ってもらう。		
		達成率	60%		
○活動に対する評価		・小学校からは好評を得ており、今後も出来る限り継続していきたい。			
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	C	運動は定着してきているが実施内容の工夫が必要である
①役職員・組合員の参加	C	役職員一体で取り組んでいるが組合員には浸透していない	③運動の計画性	B	水利施設を見学し、役割について理解してもらえるよう説明している
②後継者育成の工夫	D	人材育成までは取り組んでいない	4. 運動の成果		
2. 活動の興味性について			a. 組織活性化	C	組合員の意識向上までには至っていない
①基本理念の設定	B	目標を立て取り組んでいる	b. 地域農業	C	先導的な組織にはなっていない
②地域の歴史等の伝承	B	干拓の歴史となぜ排水機場が必要なのかについて理解されつつある	c. 地域コミュニティー	B	今のところは小学校との関わりだけであるが、今後更なる努力が必要である
③運動の先駆性	C	目標に沿って位置づけされているが工夫が必要である	d. 地域資源管理	B	子ども達を通し学校内、家庭内で話題にしてもらい少しずつはあるが、保全強化につながっていると思う
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	B	学校側の協力を得て継続していきたい	・安全面に留意し、継続的な取り組みができるよう努力していきたい。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

学習田農業体験活動

21世紀創造運動の一環として、井川小学校5年生による学習田体験農業活動「田植え・稲刈り」に参加して9年目に入った。

田植えでは、井川町農業委員より苗の扱いや植え方を教わったあと、田植機での作業を体験してから手植えでの作業が始まりました。水の張った泥田に恐る恐る足を入れ、最初は慎重に作業していた子供たちも、足が抜けずにバランスを崩し尻もちをつく子や苗をキャッチをするとき顔に泥が飛び跳ねて歓声を上げる子など例年と変わらない光景であった。

稲刈りでは、農業委員の方から手書きの絵で刈り方の説明を受け、コンバインに同乗し機械での稲刈り作業を体験したあと、慣れない手つきで黄金色に育った稲を慎重に刈り取っていた。今年は大雨の影響を受け、一部倒れている稲や雑木が絡んでいたり苦戦しているようでしたが、最後は刈り取った稲をコンバインまで運び脱穀の作業を体験していた。

終わりの会では、理事長より水土里ネットについての説明と田植えから稲刈りまでの労いの言葉を受け、後日催される収穫感謝祭を楽しみにしながら終了した。

この学習田体験農業活動は5年生が対象になっており、少人数ではあるがこの活動を毎年継続していくことで、多くの子どもたちに農業水利施設の役割や重要性を啓発できる良い機会であり今後も継続していきたい。



活動体制	
実施主体	井川小学校
後援・連携	井川町教育委員会 井川町農業委員会 水土里ネット井川（井川町土地改良区）
実施期間	田植え5月23日 稲刈り10月1日 収穫感謝祭12月11日
参加者	井川小学校（5年生、教職員、保護者）井川町（農業委員会、教育委員会）等 延べ127名
報道関連	湖畔時報社 井川広報誌
活動実施年数	9年目（H17年～）
連絡先	〒018-1512 南秋田郡井川町北川尻字海老沢樋ノ口36-2 井川町土地改良区 TEL.018-874-2105
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット井川（小林 秀昭）					
○活動の目標及び達成率		目標	農業水利施設の役割と重要性		
		達成率	70%		
○活動に対する評価		<ul style="list-style-type: none"> 行政、教育機関との連携は順調であり定着している。 農業水利施設の役割を理解してもらうよう継続していく。 			
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	C	特別な工夫はなし
①役職員・組合員の参加	C	役職員の意識は向上したが、組合員までは浸透していない	③運動の計画性	B	活動時に水土里ネットの説明を実施
②後継者育成の工夫	B	小学生を対象に活動している	4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	C	全体的な意識の向上まではいっていない
①基本理念の設定	A	水土里ネットについての啓発を継続している	b. 地域農業	B	地域農業の振興に務めている
②地域の歴史等の伝承	B	管理施設に隣する場所で活動	c. 地域コミュニティー	C	一部との関わりとなっている
③運動の先駆性	B	水土里ネットの関心を深めるため活動	d. 地域資源管理	C	一部の参加となっている
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	無理なく継続できている			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

「古代米の梵天で高校受験全員合格」祈願

本荘東中学校3年生による古代米の田植え稲刈り体験を実施。5月24日東中3年生132名が古代米の苗を使い、田植えを行いました。

今年の生徒会のスローガンは「Revolution～東中革命～」です。

東中に革命を起こし、全校生徒が次のステップへと進もうという意味が込められ、今年開校9年目を迎え、来年は節目の10年目です。次の時代にという気持ちも含め【NEXT】という文字にしました。

8月30日古代米部分だけの稲刈りをし、その刈り取った稲を使って梵天を作り12月11日に寄贈しています。(梵天には高校受験合格・交通安全の願いが込められています)

今回は3年生徒全員がフロアに集合し、寄贈後、受験全員合格を祈願しました。



活動体制	
実施主体	本荘子吉環境保全活動組織
後援・連携	水土里ネット子吉（由利本荘市子吉土地改良区）
実施期間	5月～12月
参加者	本荘東中学校3年生他（132名）
報道関連	梵天寄贈時にケーブルテレビで撮影
活動実施年数	8年目（H18年～）
連絡先	〒015-0042 由利本荘市埋田字小館81-16 由利本荘市子吉土地改良区 TEL. 0184-22-0426
その他	県奨励賞（H17）、県知事賞（H21）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット子吉（渡辺 聡）

○活動の目標及び達成率	目標 東中3年生全員参加 達成率 100%			
○活動に対する評価	・学校行事として取り組んでもらえることから、地域住民の参加も可能にしていけたら良いのでは。（天候による順延の知らせが難しい）			
判定基準	自己判定（達成度）	判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等	判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	C 浸透や継続は可能だが、今以上の工夫は難しい。
①役職員・組合員の参加	B	毎年広報で知らせているが、現在は保全事業の一環で行われているため、創造運動が始まりであるとは、組合員全てが理解しているとは疑問である。	③運動の計画性	D 水土里ネットの重要性については理解が薄いと思われる。
②後継者育成の工夫	D	将来の人材はわからない	4. 運動の成果	
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	D 改良区事業の参加、組織の活性化には繋がっていない。
①基本理念の設定	A	生徒に農作業を通じ将来農業に関心を持ってもらいたい。	b. 地域農業	D 先導的では無い
②地域の歴史等の伝承	B	農地を活かす運動となっている。	c. 地域コミュニティー	B 学校とは密接に関わっている
③運動の先駆性	A	後輩に受け継がれている	d. 地域資源管理	C 農地の保全には役立つが、施設の保全には繋がらない。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について	
①運動の継続性	A	無理の無い運動である。		

(自己判定) A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

農村環境対策による学校教育と連携した農業体験学習

平成25年度は、農地・水環境保全活動の事業の一環として学校教育と連携した活動が実施されました。

5月24日の田植え作業には、にかほ市立金浦小学校5年生と地区活動組織会員で、伝統的田植え作業と農業水利の概要を学び、最後に体験感想を述べてもらい生育状況を調査しながら、秋の収穫を期待して終了しました。

今年は、長雨等で生育も心配されましたが、作柄は平年並みで9月25日には、稲刈り作業が実施され刈り取り作業が初めての生徒がほとんどでしたが、刈り取り後に稲の杭掛け作業も体験して終了した。最後に全員で記念写真を撮影しました。

その後、収穫した米を利用した昼食会も兼ねた「農業体験学習交流会」が2月27日に小学校で開催され、活動組織会員からも10名参加して共に学習を行いました。

交流の中で、将来農業に従事したい希望の生徒はいませんでしたが、今後農業体験で汗を流し一生懸命作業したことを忘れないでいただければ有り難いと思っています。

最後に当組織も高齢化してきておりますが、当環境保全活動事業が続づく限り継続していきたいです。



活動体制	
実施主体	飛地区環境保全活動組織 代表 佐藤 正春
後援・連携	水土里ネットにかほ（にかほ市土地改良区）にかほ市立金浦小学校 にかほ市農林水産課
実施期間	5月25日～2月27日
参加者	田植え作業50名・稲刈り作業57名・農業体験学習42名
報道関連	にかほ市企画広報班
活動実施年数	11年目（平成15年）
連絡先	〒018-0311 にかほ市金浦字花潟93-1 にかほ市土地改良区 TEL. 0184-74-5496
その他	県奨励賞（H19）、県知事賞（H23）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネットにかほ（佐藤 正春）

○活動の目標及び達成率	目 標 農業体験学習を通じて学校教育と連携を図る				
	達成率 80%				
○活動に対する評価	・11年目になり充実してきている				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	C	取り組みの継続はしているが他団体連携はない
①役職員・組合員の参加	A	組織体制は充実してきている	③運動の計画性	B	概ね理解されている計画になっている
②後継者育成の工夫	C	地域の高齢化により難しい状況である	4. 運動の成果		
2. 活動の意味性について			a. 組織活性化	B	概ね組織の活性化になっている
①基本理念の設定	A	目標を立てて取り組んでいる	b. 地域農業	C	至っていない
②地域の歴史等の伝承	A	水土里ネットの特徴を生かした活動になっている	c. 地域コミュニティー	A	概ねコミュニティーが図られている
③運動の先駆性	B	基本理念に基づいた運動になっている	d. 地域資源管理	C	多少強化につながっている
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	総合的に無理のない運動になっている	組織も高齢化しているが、できる限り支援していきたい		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

農業体験学習（米づくり体験）

本地区では「農業体験学習」の一連の活動として地元小学生を対象に農業用水の水質調査、二級河川西目川の魚類生息調査、親水公園の清掃、そして、米づくり体験を毎年継続して実施している。

米づくり体験は小学校5年生が主体となって播種、田植え、生育観察、稲刈り、自然乾燥の各工程で実体験を通じた学習活動をしている。

田植え、稲刈り、自然乾燥は昔ながらの手作業で、小学生の他、幼稚園、一般関係者が一緒に活動をしている。又、田植えは一部機械移植をし、機械には小学生を乗せ作業を実感させている。

更に自然乾燥は、刈り取った稲を小学生、幼稚園児が運搬し、棒杭による自然乾燥をしている。

体験学習田は西目小学校の近くの県道沿線に位置し、パイプラインかんがいで、農道は舗装されており、作業環境も良く楽しみながら作業を進めている。又、作業時には子供の保護者も多く集まり、作業にも参加している。

自分達の作業で収穫した貴重な自然乾燥米は学校での試食と、給食用に活用している他、西目出身の東京ふるさと会で試食用として利用している。

東京の試食会用に使用している袋には作業中の子供の写真を貼り、体験学習により収穫したふるさとの米であることを表示しており、好評で米の消費拡大の役割を果たしている。

又、この体験学習により農業に対する関心と環境に対する関心も深まってきているので今後も継続したい。



活動体制

実施主体	西目環境保全活動の会
後援・連携	水土里ネット西目（西目土地改良）、J A秋田しんせい西目地区、由利本荘市役所西目総合支所稲作研究会、A S T農場、西目小学校、西目幼稚園、年長児保護者、西目地区老人クラブ
実施期間	4月19日（播種）、5月17日（田植え見学）、6月21日（稲の生育観察）、9月25日（稲刈り）
参加者	播種70名、田植え166名、稲の生育観察66名、稲刈り123名
報道関連	なし
活動実施年数	4年目（H22年～）
連絡先	〒018-0604 由利本荘市西目町沼田字西潟356-3 西目土地改良区 TEL. 0184-33-4666
その他	さなえ賞（H23）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット西目（三浦 昭夫）

○活動の目標及び達成率	目標 地域農業に対し関心を深める 達成率 100%
○活動に対する評価	・屋外での活動であり天候に左右されるため小学校の授業時間の調整等、難しい面もあるが、「農業が基幹産業である」ということに対する関心と環境保全にも関心が深まってきた。又、継続して実施することにより地域農業の発展に寄与できると思っております。
判定基準	自己判定（達成度） 判定 評価等
1. 取組体制について	②運動の発展・拡大 A 事業実施前に充分打合せして実施している
①役職員・組合員の参加	A 役員、組合員以外の非農家参加もある
②後継者育成の工夫	A この運動に理解ができていく
2. 活動の意欲性について	4. 運動の成果 a. 組織活性化 B 組織の活性化までは至っていない b. 地域農業 B 先導的な組織とはいえない c. 地域コミュニティー A 大いに貢献している
①基本理念の設定	A 農業への関心を深めることに主眼をおいて取り組んでいる
②地域の歴史等の伝承	B 地域資源等を生かした活動はあるものの水土里ネットの理解は不足している
③運動の先駆性	A 体験学習は作業の節目に行っている
3. 運動の継続性・発展性	d. 地域資源管理 B 地域資源の保全強化につながっているものの多様な主体の参加状況ではない
①運動の継続性	A 計画の中で実施している
	5. 今後の課題等について ・天候により日程が左右されることもあるが、この活動が体系的なカリキュラムにより学習の一課程となれば更に効果がでてくると思われる。又、後継者の育成にもつながると思う。

（自己判定） A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

水の大切さと地域環境を学ぼう～施設見学会～

今回で7回目となった西明寺小学校4年生との施設見学会は、10月30日の実施となった。

今年は昨年までの宮田頭首工、西明寺高区浄水場、下水処理施設の西明寺クリーンセンターに加え小山寺頭首工を見学した。当日朝まで雨が降り天気を心配していたが、見学中は晴れてゆっくり見学することが出来た。

宮田頭首工では子供たちは、改良区の説明に熱心に聞き入り、またメモをとっていた。

最初に管理事務所の中を見て遠隔操作で水門のゲートを調節することを知り、管理橋に上りその高さや長さ(100m)水深(2m)を知った。また、桧木内川の上流から流れてきたゴミが取水口に溜った様子を見て、何気なく捨てたゴミが川を汚すということを知ったと思う。また自家発電機をみて、停電になっても大雨の場合にはゲートは自動で上がることを知った。次に今回が初めてとなる小山寺頭首工の見学に行った。こちらの頭首工は田沢湖の水が流れてくる瀧尻川にかかるラバーゲートで、ゴムで出来ていて風船の様に膨らんで川をせき止め、大雨になるとゲートが萎むことの説明を受け、ゴムという言葉に皆驚いていた。ここでは多くの質問が出た。

次に仙北市企業局の協力で浄水場を見学させてもらった。最初に建物の外にある戸で地下水を汲み上げ、炭酸を抜き建物内で濾過機や塩素で浄化して、各家庭に供給されることを知った。最後に仙北市下水道課の協力で下水処理場を見学させてもらった。そこでは汚水を浄化するバクテリアの姿を電子顕微鏡で見ることが出来た。処理場で浄化された水は桧木内川に流れていく。どの施設でも、自分たちの生活に水はかけがえのないもので色々な人たちがその水を管理していること、ゴミを捨てたりして川を汚してはいけないことを知ってくれたと思う。また水土里ネットの役割もよく理解してくれたようである。

後日感想文を「きらきら発見」と題し文集にして配り、各家庭で読んでもらうようにした。仙北市広報でも大きく取り上げて掲載になったので、市内全域で知られるようになったと思う。



活動体制	
実施主体	水土里ネット西木（仙北市西木土地改良区）
後援・連携	西明寺小学校、仙北市役所
実施期間	10月30日
参加者	西明寺小学校4年生（20名）先生（2名）仙北市役所（6名）土地改良区（8名）
報道関連	広報SENBOKUせんぼく
活動実施年数	7年目（H19年～）
連絡先	〒014-0515 仙北市西木町門屋字漆原87 仙北市西木土地改良区 TEL.0187-47-2602
その他	さなえ賞（H21）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット西木（伊藤 長三）			
○活動の目標及び達成率	目標	小学生を対象に水土里ネットの役割と「水と環境の大切さ」を考えてもらい、各家庭で話題にしてもらう	
	達成率	99%	
○活動に対する評価	・7回目となる施設見学会は、すっかり定着したように思う。真剣に説明を聞く子供達の感想文には、「水は大切だ」「川にゴミを捨てない」という言葉が多かった。		
判定基準	自己判定（達成度）		自己判定（達成度）
	判定	評価等	判定 評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大 C 浸透・継続にはなっていないが広がりはない
①役職員・組合員の参加	B	施設見学会の様子を市の広報や総代会資料に載せて、活動を周知徹底している	③運動の計画性 A 大いになっている
②後継者育成の工夫	D	特にしていない	4. 運動の成果
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化 D
①基本理念の設定	A	当初から小学生を対象に施設見学会を行い、水土里ネットの役割と「水と環境の大切さ」を各家庭で話し合ってもらおうと活動している	b. 地域農業 D
②地域の歴史等の伝承	B	宮田頭首工と小山寺頭首工の2つの頭首工を持っているので、それぞれを見学することが出来た	c. 地域コミュニティー A 小学校との信頼関係が築けている
③運動の先駆性	E	今出来る活動は小学生の施設見学会だけである	d. 地域資源管理 D
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について
①運動の継続性	A	大いになっている	・現在できる活動はしているが、他の活動を模索中である

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

地域の用水を支える財宝「緑のダム」

① 7月2日(火) 2013七滝「水の森」植樹（森林学習会）

美郷町が主催した植樹事業が七滝水源涵養林にて行われました。植樹前に、「森林のはたらき」と題して学習会を開催。森林の多面的機能を説明し、植樹する意味を訴えました。

その後、ブナの苗木200本とホウノキ20本を植樹し、参加者全員で「育てブナの木」と呼び掛け苗木の成長を願いました。

② 7月17日(水) 川の生き物調査

藤木小学校4年生と美郷町六郷東根の上流を流れる湯田沢川にて水生生物調査及び植物観察会を実施しました。生き物の捕獲体験を行い、観察用水槽と図鑑を眺みながら生き物の特定をしました。

調査結果は、きれいな川に生息する生き物が多数発見され水質は良好であることが分かりました。

③ 9月30日(月) 清水の生き物調査

六郷小学校5年生と六郷湧水群にて生き物調査及び水質検査を行いました。今回は4箇所の清水を選定し、2グループに分かれて調査を行いました。生き物はイバラトミヨが多数確認され、児童たちは喜んでいました。水質はpHが6.5~7.0の間で中性であることも分かりました。

調査結果は、10月末に美郷町が開催した「美郷フェスタ」にて児童らが発表する機会にもなり、大きな成果を得られたと感じます。



活動体制	
実施主体	水土里ネット七滝（秋田県七滝土地改良区）
後援・連携	秋田県仙北地域振興局農林部、美郷町、社団法人東京生薬協会、日本航空株式会社
実施期間	7月2日、7月17日、9月30日
参加者	平成25年7月2日(火) 美郷町内全小学校4年生、保護者、美郷町民 220名 平成25年7月17日(水) 藤木小学校5年生21名、教諭5名 平成25年9月30日(月) 美郷町立六郷小学校5年生51名、教諭5名 延べ302名
報道関連	秋田県HP、美郷町HP、水土里ネット七滝HP、広報誌七滝
活動実施年数	6年目（H20年～）
連絡先	〒019-1404 仙北郡美郷町六郷字米町29 秋田県七滝土地改良区 TEL. 0187-84-2137
その他	さなえ賞（H22）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット七滝（藤岡 義博）					
○活動の目標及び達成率	目標	水の原点は水源涵養林であることを認識してもらう。			
	達成率	90%			
○活動に対する評価	・子供を通じて大人の参加も得られ、多くの参加者へ水源涵養林のPRをすることが出来た。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	A	学校教育との連携により毎年恒例の行事として定着している。
①役職員・組合員の参加	A	総代・組合員から参加を得られるようになってきた。	③運動の計画性	B	水利施設の管理のみならず、水源涵養林を所有し管理もしていることでのPRが出来た。
②後継者育成の工夫	A	各種研修会へ職員が参加しスキルアップに努めている。	4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	A	役職員が一丸となり運動へ積極的に取り組み、役員は機会あることに総代や組合員へ運動の啓発をしている。
①基本理念の設定	A	植樹、生き物調査で地域自然の素晴らしさを感じ、水土里の役割を子供たちが理解し、子供から家族、地域住民へと伝えてもらう。	b. 地域農業	B	水源涵養林から湧き出る水が農業に欠かせないものだとなっている。
②地域の歴史等の伝承	A	水源涵養林をPRすると共に水源地の理解を深めてもらっている。	c. 地域コミュニティー	A	各種団体との連携が強化されてきた。
③運動の先駆性	B	他の手本となるよう取り組んでいる。	d. 地域資源管理	B	水利施設の管理方法、水土里ネットの役割の理解を深めてもらう大変良い機会となった。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	小学校の要望も取り入れた運動を行い、経費も出来るだけ抑えている。	・小学校と綿密な打合せを行い、連携を更に強化していく。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

キャベツで応援…よこての活性化運動！

今年度は「横手やきそばを地域から応援する」をテーマに、金沢地区で栽培したキャベツをやきそばの具として提供する取り組みを行いました。夏キャベツ・秋キャベツといった、季節に合わせた植付けと収穫を何度か繰り返し、収穫後には全児童による試食会を始め、横手やきそば四天王、全国B-1グランプリ等にキャベツの提供を行いました。今年は天候が不安定だったため、児童の皆さんは特に夏休み中の虫の駆除や水やりには大変苦勞をしていたものの、立派なキャベツを収穫することが出来ました。

今回取り組んだ金沢小学校は平成28年度より市内の小学校と統合が決まっているため、今年度、来年度の2年間で心に残る学習体験をしてもらいたいという地域の強い要望は基より、横手やきそばサンライ'Sのスタッフ、金沢地区資源保全隊の皆さん、金沢保育園児などたくさんの方々の地域への愛情と協力で成功することが出来ました。少子高齢化社会の中でキャベツ栽培を通じ、分野の異なる方々が一体となり、一つの大きな目標を立てて成功したことは、児童にとっても地域にとっても大変貴重な体験であり、思い出の1ページに残る創造運動であったと思います。



活動体制	
実施主体	水土里ネット南旭川（秋田県南旭川水系土地改良区）
後援・連携	水土里ネット平鹿支部、横手地域資源保全隊（金沢地区）
実施期間	6月4日、7月22日、9月1日、9月13日
参加者	横手市立金沢小学校児童他 89名、金沢保育園児他 22名、横手地域資源保全隊 8名、横手やきそばサンライ'S 15名、土地改良区職員 6名 計140名
報道関連	
活動実施年数	7年目（H18年～）
連絡先	〒013-0060 横手市条里一丁目1番70号 秋田県南旭川水系土地改良区 TEL.0182-33-7200
その他	さなえ賞（H19）、県奨励賞（H19）、県知事賞（H22）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット南旭川（照井 元）					
○活動の目標及び達成率	目標	野菜づくりの大切さ、大変さを理解する。			
	達成率	90%			
○活動に対する評価	・学校教育の一環として地産地消は基より、キャベツの提供を通じイベントでの体験発表をする機会が出来たことは大変良かったと思う。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	A	横手市内の小学校を順番に周り、運動を年々広く展開している。
①役職員・組合員の参加	B	学校等の連携もあり、地域の皆さんにもっと参画していた。	③運動の計画性	A	全校児童を対象に水と施設について学習会を開催している。
②後継者育成の工夫	A	横手地域資源保全隊と合同で取り組んでいる。	4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	A	総代会や広報誌を定期的に発行し、意識向上に努めている。
①基本理念の設定	A	管内の地域を2年毎に順番を決め、取り組んでいる。	b. 地域農業	A	資源保全隊を中核に地域に合わせた運動の展開をしている。
②地域の歴史等の伝承	A	地産地消を生かした取り組みをしている。	c. 地域コミュニティー	A	地域住民は基より関係団体の協力を促し、運動を展開している。
③運動の先駆性	B	継続的な運動（地域の活性化）に取り組んでいる。	d. 地域資源管理	A	毎年取り組みの方法を変えながら、地域資源の保全に繋がる運動を展開している。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	経費を余りかけず啓発普及に力を入れている。	・運動がマンネリ化しないことや、各種事業の兼ね合いもあり地域に負担をかけないよう、「継続運動」を末永く展開していきたい。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

皆瀬1号幹線用水路(緑化活動)～商店街にオアシスを～

横手市十文字町の中心部を流れる皆瀬1号幹線用水路の水路敷地を活用した花の植栽が、平成25年6月28日に行われました。

この活動は国営事業により開水路から暗渠水路に改修されたもののコンクリートで覆われ少し寂しげな商店街を花で明るくしようと「十文字歩道の環境美化を考える会」が主催となり今年で5年目を迎えます。

当日は地域住民や関係機関等からの協力を得て総勢50名の参加者により行われ、水路沿い211mに亘りサルビア・ビクトリア・ペコニアなど6種類の花3,200株が一株一株丁寧に植え付けられました。

花は商店街を訪れた市民の憩いの場として道行く人の目を楽しませくれました。

毎年行われるこの活動は、環境・景観はもとより、施設の持つ多面的機能をフルに発揮し、街と融合した水路となっています。



活動体制	
実施主体	十文字歩道の環境美化を考える会・水土里ネット雄物川筋（秋田県雄物川筋土地改良区）
後援・連携	東北農政局平鹿平野農業水利事業所・秋田県平鹿地域振興局農村整備課・横手市
実施期間	6月28日
参加者	十文字歩道の環境美化を考える会会員・地域住民 等 50人
報道関連	
活動実施年数	5年目（H21年～）
連絡先	〒013-0102 横手市平鹿町醍醐字浅舞山13-74 秋田県雄物川筋土地改良区 TEL. 0182-32-2244
その他	県奨励賞（H24）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット雄物川筋（吉田 一則）					
○活動の目標及び達成率	目標	花いっぱい商店街			
	達成率	90%			
○活動に対する評価	・施設の持つ多面的機能をフル活用				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	B	市内各自治組織や団体に対する参加の呼びかけ。
①役職員・組合員の参加	C	広報誌等を活用した周知が更に必要である。	③運動の計画性	C	植栽が主となり施設の役割や水土里ネットの仕事について不足であり今後検討する必要がある。
②後継者育成の工夫	B	若手職員を主体とした立案・計画実践活動が行われている。	4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	C	団体や近隣住民等限られた参加者による活動のため広報誌等を活用し関心を高める運動を展開する必要がある。
①基本理念の設定	A	施設を活用した地域貢献への取り組み。	b. 地域農業	E	
②地域の歴史等の伝承	E		c. 地域コミュニティー	B	
③運動の先駆性	B		d. 地域資源管理	B	
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	各種事業を活用した活動。	・管内の国営造成施設において同様の活動を推進する必要がある。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

山域住民一体となった維持管理コンテスト

水土里ネット山田五ヶ村管内で展開されている、農地・水・環境保全管理組織（20の下部活動組織）が実施している基礎活動、農村環境向上活動の取り組みについて、毎年度実施している維持管理コンテストと共催で21世紀土地改良区創造運動を実施しています。

各活動組織の代表（代理出席も可）が各地区の実施状況を巡回し、項目別に採点しながら実施内容の説明を行いました。各活動組織において、それぞれ工夫した取り組みが見られ、活動組織間の連帯意識の高揚や情報交換の場としてなくてはならないものとなっております。

また、農業用水利施設の重要性や水土里ネットが行っている維持管理活動のPRにも努めながら、農地・水保全管理支払制度を通じて大きな効果が生まれつつある地域住民との交流活動（農家・非農家を巻き込んだ集落環境、生活水の確保等）、更新期を迎える土地改良施設の更なる長寿命化対策の啓蒙にも努めております。

この維持管理コンテストは本年度で27回を数え、水土里ネット山田五ヶ村の21世紀土地改良区創造運動の中核を担う活動となっております。今後とも創意工夫に努めながら、水土里ネットの大切な役割を地域住民に伝えていきたいと考えております。



活動体制	
実施主体	水土里ネット山田五ヶ村（雄勝郡山田五ヶ村堰土地改良区）
後援・連携	農地・水・環境保全向上対策活動組織、維持管理委員会、維持管理ブロック委員会
実施期間	9月9日
参加者	水土里ネット役職員、農地・水・環境保全向上対策活動組織役員他36名
報道関連	秋田県雄勝地域振興局農林部農村整備課
活動実施年数	12年目（H14年～）
連絡先	〒012-0055 湯沢市山田字中屋敷139番地 雄勝郡山田五ヶ村堰土地改良区 TEL. 0183-73-0438
その他	東北推薦（H15）、県奨励賞（H18）、農林水産大臣表彰（H18） 東北地方大賞・21創造運動大賞（H19）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット山田五ヶ村（倉田 一治）

○活動の目標及び達成率	目標 農地・水保全管理支払制度との連携 達成率 90%				
○活動に対する評価	・更新期を迎える土地改良施設の長寿命化対策のため、農地・水保全管理支払等の制度を活用し、地域住民の手によるみんなの維持管理活動を心掛けている。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	B	農地・水・環境保全管理組織や集落との連携を図る
①役職員・組合員の参加	A	農地・水保全管理支払制度により積極的に活動に参加	③運動の計画性	A	世代交代が進む組合員や地域住民に対する啓蒙・啓発
②後継者育成の工夫	B	過疎化、高齢化の進展により組織毎の後継者育成が課題	4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	B	継続性を持った取り組みにより意識向上を図っている
①基本理念の設定	A	地域住民参加型の維持管理体制の確立が目標	b. 地域農業	B	農地の保全管理を含め、良好な生産基盤を確立したい
②地域の歴史等の伝承	A	管内維持管理体制の統一により、地域資源を保全	c. 地域コミュニティー	C	小学校等との連携が不定期となっており、今後の課題
③運動の先駆性	A	農地・水保全管理支払制度と密接に連携	d. 地域資源管理	B	農地・水・環境保全管理組織や中山間等集落協定とも連携を図り、地域資源の保全に努めている
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	26年前から毎年維持管理コンテストを実施している			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

21 創造運動課外学習（地域とのふれあい）

当水土里ネットでは「農業農村と農業施設の多面的機能」、「先人の偉業」、「施設巡り」、「生き物調査」、「水を調べよう」など農業農村や環境の大切さについて理解を深めるような授業を、次代を担う子どもたちに「水土里の出前授業」として市内の小学校で開催しています。

今年は須川小学校の4年生の皆さんと高松地区三途川頭首工・三途川隧道の現地見学会を実施しました。高松地区を流れる高松川は国有林地内川原下硫黄山から湧出する酸性水の為、昔から稲作に苦勞してきた地域であり、当頭首工は酸性水対策として高松川の支流三途川より隧道により真水を引水している施設です。高松川地区で酸性水から解放されるまでには二十数年かかっており、昔の人々の苦勞を知ってもらおうとともに、三途川の水は農業用水のみならず地域の生活用水としても重要な役割を持っていることを知ってもらっています。

21世紀創造運動の活動を通して、普段何気なく流れている水も昔の人々の苦勞があって今に至っていることを知ってもらい、地域の水を大切に、水土里ネットの活動に少しでも興味を持ってもらえればと思っています。



活動体制	
実施主体	水土里ネット湯沢中央（湯沢市中央土地改良区）
後援・連携	須川小学校
実施期間	9月20日
参加者	16名（生徒先生 15名）
報道関連	特になし
活動実施年数	14年目（H10～）
連絡先	〒012-0862 湯沢市関口字道地26 湯沢市中央土地改良区 TEL. 0183-78-0670
その他	東北地方奨励賞（H17・18）、県奨励賞（H17・18）、県知事賞（H20）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット湯沢中央（最上 保男）

○活動の目標及び達成率	目標	川・水が地域資源として大切で、それらが持つ多面的機能を再発見し関心を高めてもらう。			
	達成率	90%			
○活動に対する評価	・人々に大切に護られてきた自然資産(川・水)やふるさとに対する思い等、さらに地域への関心が高まった。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	B	
①役職員・組合員の参加	A		③運動の計画性	B	
②後継者育成の工夫	A		4. 運動の成果		
2. 活動の意欲性について			a. 組織活性化	B	
①基本理念の設定	A		b. 地域農業	A	
②地域の歴史等の伝承	A		c. 地域コミュニティー	A	
③運動の先駆性	B		d. 地域資源管理	B	
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	C				

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

どろんこ学校12 (先人に学び・農に学び・守り育てる・「地域の宝」)

当水土里ネットは先人が築き上げてきた農業水利施設を地域の宝として捉え、施設は地域住民全体の共有財産であり、その意識の高揚を図っていくため、学校教育と連携した活動を展開することにより、児童やその親、祖父母、地域住民等に農地・農業水利施設のもつ多面的機能を理解していただくとともに、近年問題になっている農業水利施設へのゴミの投棄について啓発活動を行い、地域環境の保全に努めていきたいと思っている。

このため平成25年度から「ふるさと水と土」地域住民活動業務を県から受託し、支援を受けながら、稲川地域の4小学校で田植えや稲刈りなどの農業体験を実施して、地域の方々に呼びかけ手植えや手刈りの仕方などを子供たちに教える活動を行ったり、施設見学会を開催して先人が開削した農業水利施設や農業用水の大切さなどの理解をうながす活動を行っている。

また、学校との連携が図られるようになったことから、ゴミ問題に子供たちの力を借り、ゴミ捨て防止標語コンクールを開催し、優秀作品を看板にして地域に展示したり、土地改良区の広報誌に掲載し、地域住民にゴミ捨て防止の啓発活動を行った。



活動体制	
実施主体	水土里ネット稲川（稲川土地改良区）
後援・連携	湯沢市、湯沢市教育委員会、管内5小学校、2中学校、資源保全会、農事組合法人、その他
実施期間	5月27日～2月14日
参加者	管内5小学校、2中学校、資源保全会、農事組合法人など延べ1,235人
報道関連	秋田魁新聞、朝日新聞、農業共済新聞
活動実施年数	12年（H14年～）
連絡先	〒012-0105 湯沢市川連町字上平城120 稲川土地改良区 TEL. 0183-42-2116
その他	県土連会長奨励賞（H16、H18）県知事賞（H18）東北地方奨励賞（H16、H21）東北地方大賞・21創造運動大賞（H22）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット稲川（阿部 進）

○活動の目標及び達成率	目標	農業体験を通じ、地域の宝である子供や、農地・農業水利施設を守り、育てる。			
	達成率	95%			
○活動に対する評価	・学校教育との連携に資源保全会など地域の方々が関わるにより創造運動への理解が深まっているように思う。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	A	運動開始以来12年間、何千人の子供達と交流し協力していただいた方々も相当数に及ぶ。活動にはマンネリ的な面もあるが、子供達は毎年違い、最初の子供達は20代半ばもう少し2世がどろんこ学校に入ってくる年代。継続が重要と思われる。
①役職員・組合員の参加	B	役員が学校田を提供し、役員総代など組合員も子供たちに教えるため積極的に参加しているが、組合員にもう一步浸透が必要。	③運動の計画性	A	施設見学会や出前授業で農業水利施設や水土里ネットの役割などを理解していただいている。
②後継者育成の工夫	A	水土里ネットの若い職員がコーディネーターとして活動できるよう研修を受講するなどしている。	4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	B	改良区の運営や事業の取り組みには協力的だが、もう一步組合員に意識の向上を促したい。
①基本理念の設定	A	理事会や総代会で創造運動の意義を理解していただき「先人に学び・農に学び・守り育てる」「地域の宝」をスローガンに掲げ取り組んでいる。	b. 地域農業	A	事業を積極的に推進し、戦略作物等の栽培に対応したほ場の整備に努めている。
②地域の歴史等の伝承	A	先人が苦勞して開墾した水利施設など施設見学会や出前授業、紙芝居を行うことで施設の大切さを理解していただき、黒坂石衛門翁顕彰会が設立されており、毎年「慰霊祭」を開催し、教材の一部として活用している。	c. 地域コミュニティー	A	水路維持用水が流雪溝用水として利用され、農業用水が地域の宝と認識されている。また報校だより等の発信が地域に情報提供している。
③運動の先駆性	A	スローガンのおり、地域の宝（農業水利施設、お年寄りなど）を活用し、地域の宝（子供たち）を育成する活動を展開している。	d. 地域資源管理	A	流雪溝用水、防火用水などとして利用されているため、自治組織や消防団などの協力が広がりを見せている。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	職員数が少ないので、役員や資源保全会・農事組合法人、地域の方々などの協力を得ながら、活用できる補助事業を取り入れて実践している。	・創造運動は着実に地域に浸透していると思うが、もう一步底辺拡大を図りたい。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

水土里の体験～稲作体験を通しての地域交流～

昨年度に引き続き、羽後町立田代小学校の全校生徒を対象に、休耕田を活用し稲作体験を通して、農業及び食の大切さと水土里ネットの役割を学ぶことを目的に実施している。

今年度は、8アールの水田に田植えと稲刈りの2作業を学年毎に分担し体験学習を行った。また、体験学習と別に独自に稲の成長を観察するなど意欲的である。収穫したお米については、食育の授業や地域の福祉活動に活用されており、地域住民の方々より大変好評を得ている。尚、5年生にとって、社会科学習の一環であり興味を持って積極的に活動している。

羽後町立西馬音内小学校の場合、JAこまち農協青年部が主体となり近代的な農法を含め農作業体験と食育の授業を行うなど、5年生の子供達を対象に行っており好評を得ている。

また、収穫感謝祭に保護者の方々も参加し、各農業団体の活動を理解して頂ける会であった。

「第9回食料・環境・ふるさとを考える女性の会」と題して、管内の女性の方を対象に農業水利施設見学と県職員の方を講師に「雄勝の農林水産業の現状と課題」を講演して頂き、その後、当水土里ネットについて女性の視点での意見交換会を行った。

この意見交換会では、今後の農業政策に対する不安を述べる中、農業用水及び農業水利施設の重要性と維持管理の必要性を分かりやすく説明を頂き理解を深めたとの感想が多かった。

また、今後この活動を継続して頂きたいとの声が多く大変有意義な会であった。



活動体制	
実施主体	水土里ネットうご（羽後町土地改良区）
後援・連携	町内2小学校、秋田県雄勝地域振興局農林部、羽後町農林課、JAこまち、秋田広域農業共済
実施期間	5月30日～11月19日
参加者	町内2小学校、組合員（非農家含む）、管内の女性など 総参加者315名
報道関連	秋田県のHP（美の国あきた）、JAこまち広報、秋田広域農業共済
活動実施年数	10年目（H16年～）
連絡先	〒012-1131 雄勝郡羽後町西馬音内字中野177番地 羽後町土地改良区 TEL. 0183-62-0741 E-mail: ugotochi@sea.plala.or.jp
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネットうご（藤原 周悦）

○活動の目標及び達成率	目標	出前授業6小学校、食料・環境・ふるさとを考える女性の会の実施			
	達成率	60%			
○活動に対する評価	・農作業の体験活動を通して、お米及び食について関心度が高くなった。また、当水土里ネットの役割を組合員以外の方にも活動を通して理解を得ている。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	C	継続する上で今後、地元関係者の人材育成が課題である。特に、「田んぼの学校」については、地域で行えるよう内容を改善したい。運動の発展性については、他組織との連携が必要であり、現段階では調整が図れない状況である。
①役職員・組合員の参加	B	広報での啓発及び会議等で報告しており、理解を頂いている。	③運動の計画性	A	主に女性の会で開催しており、好評を得ている。
②後継者育成の工夫	C	活動を通して、微力ながらも農業及び食育について人材を育成している。	4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	C	事業計画に織り込まれているが、当水土里ネット全体での活動でないため組織の活性化には至っていない。
①基本理念の設定	B	当水土里ネットの事業計画として、織り込んでいる。	b. 地域農業	C	地域農業の振興に寄与しているが、先導的な組織としての活動は行っていない。
②地域の歴史等の伝承	B	農業水利施設の管理及び維持管理体制等について、当水土里ネットの特徴を活動の場で説明し理解を頂いている。	c. 地域コミュニティー	B	主に農地・水・保全管理の活動を通して、地域コミュニティーが図られている。
③運動の先駆性	B	基本理念と目標に沿って行っており、「田んぼの学校」も含め当初と変わらない方向性で行っている。	d. 地域資源管理	B	上記と同様である。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	B	予算面及び活動も含め、身の丈にあった範囲で行っている。	・統合後、10年目であるが創造運動の活動等を通して、地域の方々に当水土里ネットに対して認知度が徐々に向上しました。反面、要望も増えていますが身の丈にあった活動内容とし地域主導型で行えるよう運動を展開したい。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

《 21 創造運動 》

参 考 資 料

1.平成25年度21創造運動表彰受賞一覧

(1) 秋田県21世紀土地改良区創造運動表彰

支 部	水 土 里 ネット 名	賞	所在地
秋 田	水土里ネット一ノ目潟	県知事賞	男 鹿 市
大館・北秋田	水土里ネット綴子	県奨励賞	北秋田市

(2) 21世紀土地改良区創造運動大賞・部門賞

都道府県	水 土 里 ネット 名	賞	副 題	所在地
熊 本 県	水土里ネット馬場楠堰	大 賞	歴史伝承プロデューサー	熊 本 市
鹿 児 島 県	水土里ネットまつもと	大 賞	地域連携フロンティア	鹿 児 島 市
北 海 道	水土里ネット網走川	部門賞	地域コミュニティー	美 幌 町
青 森 県	水土里ネットおになら	部門賞	地域コミュニティー	弘 前 市
岩 手 県	水土里ネット岩手山麓	部門賞	地 域 資 源 管 理	滝 沢 市
富 山 県	水土里ネット大門町	部門賞	組 織 活 性 化	射 水 市

(3) 21世紀土地改良区創造運動「さなえ賞」

都道府県	水 土 里 ネット 名	賞	所在地
秋 田 県	水土里ネット新城川	さなえ賞	秋 田 市
愛 知 県	水土里ネット豊川総合用水	さなえ賞	豊 橋 市
広 島 県	水土里ネット福山	さなえ賞	福 山 市
熊 本 県	水土里ネット百太郎溝	さなえ賞	多良木町

2.平成25年度特集「我が水土里ネット」

秋田の土地改良（投稿シリーズ）

特

集

我が水土里ネット

シリーズ①

湯沢市中央土地改良区
事務局長 高山陽二郎

我が水土里ネット湯沢中央は、平成13年に3土地改良区（湯沢市南部、湯沢市、湯沢市幡野弁天）の統合、平成21年に2土地改良区（湯沢市中央、秋田県雄勝町）の統合により、現在の湯沢市中央土地改良区（関係面積1,641ha、組合員1,927人）として、新たに生まれ変わっております。

統合の際に、主な検討事項とされた経常賦課金は、合併後の試算表に基づき、初年度から均一化を図り、維持管理賦課金におきましても、それぞれの統合で5～6年目に均一化を図ることができており、真の土地改良区合併を果たし、それぞれの賦課金の軽減に努めることができております。

この事につきましては、組合員の負担軽減を考える役員の方々の英断と、今後の土地改良区の姿を考える時、職員の充実を図り色々な事務受託料を活用した運営も取り入れていく事が必要であり、職員についてはどのような事務受託にも応えられるような教育訓練が求められ、日々努力している所であります。

事業については、各水土里ネット同様、施設の長寿命化対策に努めていますが、特に、平成22年度には国土交通省による湯沢、幡野頭首工の統合による湯沢統合堰が完成しました。この完成によって静水池より両地区への配水が良くなり、一昨年と昨年の干ばつ対策での通し水で威力を発揮しました。

TPP交渉等今後の農業情勢を考える時、土地改良区は更なる基盤の強化が必要になるものと思っておりますので、湯沢市1本の水土里ネットを検討する時期ではないかと思っています。



▲土地改良区事務室（職員6名体制）



▲湯沢統合堰

特集

我が水土里ネット

シリーズ②

十文字町土地改良区
事務局長 柴田清徳

我が水土里ネット十文字は、平成18年4月1日に3土地改良区（十文字町十三合堰、植田、睦合）の統合により、新たに十文字町土地改良区（現在の関係面積2,052ha、組合員1,388人）として設立されました。

地域は、横手盆地の南に位置した比較的平坦な地域で、主水源は皆瀬川の河川水に依存しておりますが、近年は、中干し後の最も水を必要とする出穂期に水不足が生じ、管内80箇所の揚水機（地下水利用）のフル稼働により、辛うじてこれが難を凌いできた状況にあり、電気料の年々の増加傾向から、今後の運営上、賦課金の値上げの要因となりかねないことに不安を抱いております。

しかし、平成13年度から実施されている国営平鹿平野農業水利事業にて皆瀬頭首工やこれに付帯する幹線用水路（秋田県雄物川筋土地改良区管理）もほぼ改修され、さらに、成瀬ダムの建設により、この不安も解消されようとしております。

一方、合併から7年が経過し、当初の基本的合意事項であった合併後5年以内に経常賦課金（事務費賦課）の均一化を図ることについては、計画通り実施することができ、その後も100円ずつではありますが、賦課単価の軽減に繋がっていることは喜ばしいことでもあります。維持管理費については、3地区それぞれ独自の体制と水系の地理的要因等もあり、受益の程度に応じた不均一賦課となっています。

このような中、平鹿管内には大小10の土地改良区があり、うち8土地改良区については統合整備研究会を立ち上げており、先般2月の会合において3年後を目途に合併に向けて邁進していくことで意見統一がなされたところであります。現在の厳しい農業情勢を思うと組合員の負担軽減はもとより、土地改良区の更なる基盤強化が必要と考え、当管内の合併は正しく大きな意義のあるものと感じております。



▲事務所1階（JA秋田ふるさとより借用）



▲土地改良区事務室（職員4名体制）



大仙市大曲土地改良区

事務局長 進藤 峰晴

本土地改良区は、雄物川を挟む旧大曲市街地西部の左岸地区と南部の横手市、美郷町に境を接する右岸地区の比較的平坦な地域にあり、用水源は雄物川・大戸川及びため池となっています。

平成14年12月に、4土地改良区による新設合併として設立され、合併以前の状況は、圃場整備完了による大区画(1ha)地区や、30a圃場毎のパイプかんがい地区、更に、ため池又は地下水を利用した数十ヵ所の補助揚水機等、合併地域の実情に大きな違いがありました。頭首工・ため池等のかんがいと比較し、揚水機などの電力費用は、運営に大きな負担となっております。

当土地改良区の一部の地域においては、大正年代に揚水機運転に必要な電力を求め、遠く離れた奥羽山系に自家水力発電所2ヵ所(合計出力339キロワット)を設置し、非かんがい期は売電するという画期的な事業運営をしておりましたが、施設の老朽化等の事情により、あえなく断念せざるを得なかった歴史もあります。

合併後においては、前記のとおり地域事情による維持管理体制とそれに伴う地域別賦課形態の継続としながらも、経常賦課金については組合員の理解のもと、当初から均一化を図り以後は軽減してきているところです。

大戸川頭首工



一方、当管内全般の施設は老朽化が著しく、現在、隣接土地改良区と併せ国営旭川地区かんがい排水事業により、頭首工の改修に向けた調査並びに実施設計等の段階に入ってきております。

また、揚水機やパイプラインの更新並びに改修の事業や一部未整理地域を含む300ha以上の圃場整備事業に向けた推進等、全体において抱える課題を克服すべく組合員の理解はもとより、先人に学び役職員一丸となって土地改良施設整備と組合員の負担軽減、将来営農への継承となる基盤整備に向けて努力していかなければと考えております。



水土里ネット南旭川：キャベツの収穫



水土里ネット八郎潟西部干拓：施設見学会

水土里ネットとは？

水土里ネットは、全国に約5,000ある農家で組織する「土地改良区」の愛称です。水土里ネットは、田んぼや畑を一つにまとめたり、大きく広げて整えたり、用水路を始めとする農業水利施設の管理を行っています。

また、農業用水の大切さを知ってもらうため、地域の人たちと一緒に、農業水利施設の見学や田植え体験などを行う「21世紀土地改良区創造運動」に取り組んでいます。



地元の小学生による「水源の森見学会」と「雪中田植え行事」(水土里ネット稲川：湯沢市)



農村環境を保全する

〔発行〕

水土里ネット秋田 [秋田県土地改良事業団体連合会]

〒010-0967 秋田市高陽幸町3-37 TEL.018-888-2750 FAX.018-888-2834
<http://www.akita-midori.net/>